

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570600298		
法人名	認定医療法人社団 慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台1号館	ユニット名	2号館
所在地	宮崎県日向市大字塩見10946-1		
自己評価作成日	令和2年6月22日	評価結果市町村受理日	令和2年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action\\_kouhyou\\_pref\\_search\\_list\\_list=true](https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年7月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当ホームは自然豊かな高台に位置しており近隣には同法人の関連施設があります。医療機関が母体でもあり、介護職員による小さな気づきを下にホームの看護師や主治医との連携を図ることで、適切な受診が行え健康で安心して暮らせるように努めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「地域で心穏やかで笑顔の絶えない暮らし方の実現」という理念を中心としたケアに取り組んでいる。管理者と職員は「申し送りノート」に介護現場の実情を記録し意見交換を重ね、利用者の生きがいを模索し、地域に密着した生活の場づくりに努めている。また、医療機関を母体に行っていることを活用し、医療現場との連携をとり健康管理にも努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識し、取り組んでいけるよう心掛けています。今回新たに理念作成を思案中でその人らしく生活できるよう職員間での話し合いを進めています。		老人会や近隣住民との交流回数が減ってきているが、地域密着型サービスの理念を基にケアを見直し、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。ホームでの行事には、地域の方の協力をいただき、また地域の清掃活動等に参加する事でなじみの関係を築いています。		自治会では、区費の納入、清掃や回覧板のやり取りで利用者と地域住民との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(2か月1回)では、利用者様の現状や活動報告を行っています。現状はコロナウイルスの件で開催できない為、議事録を市役所に提出しご意見等をいただいています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の会議メンバーからの意見・アドバイス等をいただき、課題や改善点は検討しサービスの質の向上に努めています。		運営推進会議では、専門職の活用や、発言しやすい環境づくりについて話し合い、そこでの意見をサービスの向上に生かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者から各種、情報をいただいています。不明な点は相談することにより、助言やアドバイスをいただいています。		行政の担当者とは日頃から事業所の問題点を相談したり、診療改定時には指導を受けながら協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会(3か月1回)を実施し、理念をもとに身体拘束防止への取り組みを行っています。日中、玄関の施錠はせず制限のない暮らしを支援しています。		3か月に1回身体拘束委員会を設け、身体的、言葉による拘束について研修している。業務現場などの事例を示すことで、職員は拘束の弊害を正しく認識し防止に努めている。また、アンケートを実施し、自覚を促すことで身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、研修で得た知識の報告を行っています。不適切なケアのチェック項目を活用し、職員の意識づけを行っています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する利用者様はおりません。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書一式の説明を行い同意を頂いております。利用者様・ご家族様の不安や疑問・要望などを尋ね、十分な説明を行いご理解いただいています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様が意見や要望を伝えやすい環境や雰囲気作りを心掛け、良い関係性が築けるよう努めています。また、玄関に意見箱を設置しています。		玄関等には利用者の様々な表情の写真を掲示し会話のきっかけづくりを行っている。そこでの意見や要望を聞き、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用しています。職員の意思表示する機会は日常的に設けていますが、常日頃職員の意見を受け入れ話し合いを持つことで意識向上・質の確保に繋がっています。		申し送りノートや介護の記録を通して情報を共有し、課題を職員で検討し、それらの意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、資格取得をサポートしていただき職員のレベルアップに繋がるよう支援して頂いています。また、正社員の転換な等があり、やりがいや向上心を持って働けるよう努めています。介護職は処遇改善加算算定を行っています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内で行われる業者による研修に参加し、すべての職員の質の向上に努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北グループホーム協議会や系列の管理者会議に参加し、情報の共有・サービスの質の向上に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様・ご家族様の希望・要望等に傾聴し、話しやすい雰囲気づくりを心掛けています。また、コミュニケーションを図ることで安心感のある良い関係性を築いていけるよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望を受け止めて相談しやすい雰囲気づくりを心掛けています。ご家族様・利用者様との信頼関係が築けるよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援は何かを見極めて、あらゆる情報を引き出し、安心して生活が出来る環境作りに努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共有できる楽しみや利用者様が興味がある事など、関わりを持ちながら共に過ごし支えあう関係性に努めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用者様の生活の様子や支援方法等を報告しています。また、面会時にも日々の様子を報告し、必要な場合は電話連絡を行っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会・行きつけの美容室など、付き合いが継続できるよう努めています。	利用者がこれまでに交流してきた人や場所・楽しみごとを把握し、関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、レクリエーションや個別作業に取り組んでいます。個別作業は興味のある方同士を卓にする事により、利用者様同士のかかわりを大切にすることを心掛けています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された場合でも、面会を行って経過を見守り対応を行っています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中からホームでの暮らし方の希望、意向の把握に努めています。把握が困難な方には、ご家族の情報を参考にその人らしく生活できるよう支援に努めています。		日々の暮らし方や会話を通して思いや、希望の把握に努めている。家族からは自宅での暮らし方や趣味等を伺い、利用者の思いや意向に沿うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族に生活歴・馴染みの暮らし方などの情報を得ています。その人らしい暮らしに近づけるよう支援に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で利用者様の心身の状況や気付き等の情報交換を行っています。その方の有する力が発揮・継続できるよう努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族から得た情報を職員定例会で話し合い、その人らしく生活できるよう現状にあった介護計画を作成しております。		利用者ご家族の意向を取り入れ、それぞれの職員の記録簿(介護記録・カンファレンス等)を基に担当者会議では利用者にとって何が必要かを話し合い、反映させている。定期的にモニタリングを行い随時ケアプランの見直しに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回の定例会の中で、利用者様の日々の生活記録や職員間での情報を共有し、気づきや工夫、ケアの実施に繋げて介護計画見直しに活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況等に対応できるようスタッフ間で共有し、柔軟な支援に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事には地域の方(区長・民生委員・婦人会)の協力を得ながら取り組んでいます。初詣は地域の神社を参拝し外部の方との触れ合いを楽しまれています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診を行っています。かかりつけ医が系列の医師となっている為、必要時・緊急時など適切な医療が受けられるよう努めています。	全員が入居前から母体の医療機関を受診、かかりつけ医としている。専門医を必要とする場合は医師の紹介と事業所から生活状況書を添付し不安のない受診に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に体調管理を行っています。介護職は状態を把握し、看護師との情報共有に努め、報告・連絡・相談に努めています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員や看護介護職員との情報収集・状態把握に努めています。また、退院後ホームでの生活が可能であるかを検討し、今後の生活について話し合いを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態に応じて、どこまでの支援が必要で事業所として出来ること出来ないことの説明を行い、情報共有に努めています。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。個々の状況に応じ、できること、できないことや、随時相談しながらの対応を伝え同意をもらっている。医療機関の体制、職員の連携の強化に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて、消防署で行われる救命救急法の研修に参加しています。専門家の指導の下、AED使用方法を学んでいます。また、看護師による急変時や誤嚥時の対応について指導を受けています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防関係者に指導の下、年3回の避難訓練を実施しています。環境整備や危険個所の調査・定期的な設備点検・備蓄品の準備を行っています。	水や防災食を備蓄し、環境整備(利用者の分かりやすい居場所配置図・防空頭巾の準備等)を行っているが近隣の住民の参加がない。	運営推進会議で早急に近隣住民の協力を呼びかけ、合同訓練を行うなど、さらなる災害対策に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、その人にあった声掛け・対応を心掛けています。また、ケアの統一やプライバシー確保の徹底に努めています。		一人ひとりの人格を尊敬し馴れ合いにならない支援を心掛けている。プライバシーに関するチェックシートを活用し自己評価を行うことで自覚を促すよう取り組んでいる	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物・誕生日プレゼント等、本人の思いや希望を聞き自己決定が出来るよう心掛けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、利用者様の希望に沿いその人らしい暮らしが出来るよう支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は鏡を見て整髪したり、洋服は本人の好みを聞いたり、おしゃれや気分転換が出来るよう支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑にできる野菜を使用して食事の提供を行っています。また、行事としておやつ作りも楽しく行っています。食後はお膳拭き、台拭き等を職員と一緒に取り組んでいます。		利用者と職員と一緒に、菜園で収穫した食材を調理するなどして、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日摂取できた食品は「食品群分けシート」を活用しています。必要な栄養バランスや水分の確保に努めながら体重管理を心掛けています。また、状態によってはお茶ゼリー等を提供をし摂取していただいています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔内の清潔保持に努めています。義歯の不具合等は、ご家族に相談し歯科受診をお願いしています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックに表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレでスムーズに排泄できるよう支援しています。		排せつパターンを把握し、声掛け誘導を行い排せつの自立を促している。紙パンツから布パンツへと移行させるよう自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食物繊維の多い食材を取り入れ、できるだけ自然排便が出来るよう努めています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合った声掛けやタイミングを心掛け、気持ちの良い入浴が出来るよう支援しています。皮膚の状態を観察し変化があった場合は、看護師に報告しております。		入浴は本人の希望や健康状態に合わせた柔軟な対応を行い、それぞれの状況で入浴日の変更やシャワー浴・足浴などの支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに応じて昼寝や休息を促しています。また、日中はレク活動に参加していただき夜間はゆっくり睡眠がとれるよう努めています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書をもとに、効用、副作用等を把握し安全に内服管理が出来るよう努めています。内服準備や服薬時のダブルチェックを行い誤薬防止に努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や得意なことを活かして、自分らしく楽しみのある生活が出来るよう支援しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に傾聴し体調を見ながら、屋外食・ドライブ等の支援を行っています。また、美容室等もご家族の協力を得ながら外出支援できるように働きかけています。		一人ひとりの暮らし方の希望に寄り添う支援を行っている。思い出の場所や気分転換に近隣を散歩したり、家族の協力で買い物やドライブ(花見・外食)支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金はありません。必要な場合はホーム立替を行っています。週1回パン屋の訪問販売があり、好みのパンを購入しております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話希望がある場合は、用件を聞き、時間帯を考慮した上で支援を行っています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の中で季節を感じていただけるよう、行事の写真、飾り付けなどで心地よい生活が送れるよう心掛けています。		共用空間には季節の花や利用者の作品を飾り、居心地の良く暮らせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでの談話、テレビ観賞やカラオケの場としての共用空間を確保できるよう努めています。また、和室での横になり寛げるよう心掛けています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの写真や使い慣れた物を持ち込んでもらい、ゆっくり落ち着いて生活が出来るよう環境作りに努めています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手摺を使用し、身体機能の維持が出来るよう工夫しています。転倒リスクのある方は、居室にセンサーマットを使用し安全に生活が出来るよう工夫しています。			